



2025(令和7)年11月例会のご案内

～ 纏 向 地 区 を あ る く ～



大和王権の初期の都市であり、邪馬台国の東の有力な候補地でもある纏向遺跡や前方後円墳の発祥の地を訪ねて古代ロマンのイメージを膨らませてみませんか

日 時 令和7年11月9日(第2日曜日)

コ ー ス

当日参加
歓迎!!

J R 卷向駅 ～～ 纏向遺跡(辻地区) ～～ (ローソン) ～～
(弁当/トイレ)
～～ 纏向石塚古墳 ～～ 纏向勝山古墳 ～～ 纏向矢塚古墳 ～～
～～ 東田大塚古墳 ～～ 纏向遺跡(太田地区) ～～ 箸墓古墳 ～～
(昼食休憩)
～～ 国津神社 ～～ ホケノ山古墳 ～～ J R 卷向駅

_____ 印 トイレ所在地

- ◆ 行 程 の 特 徴 : 平坦な道を歩きます
- ◆ 全員集合場所と時間 : JR 卷向駅改札口前 AM10:00
行程説明後 AM10:10 に出発予定です。
- ◆ 解散場所と解散時間 : JR 卷向駅、15時頃
- ◆ 服 装 : 弁当、水筒、雨具など持参。歩きやすい靴・服装で。

※昼食場所には椅子が6人分しかありませんので
敷き物を用意してください。

◇雨 天 中 止

前日の午後 8 時 45 分の NHK ニュースの中の天気予報で、奈良県北部の午前中
降雨確立 60%以上であれば中止

不明の時は河本まで(携帯 080-6112-3406)

《交通機関のご案内》

◇◇◇ 近鉄奈良方面から王寺経由でおいでの方

近鉄生 駒 08:20

萩 の 台 08:29

東 山 08:31

元 山 上 口 08:33

平 群 08:36

竜 田 川 08:38

王 寺 08:45

J R 和歌山線奈良行きに乗車(5 番線)

王 寺 09:03

巻 向 09:47

◇◇◇ 生駒方面から大和西大寺経由でおいでの方

近鉄生 駒 08:40

大和西大寺 08:48

大和西大寺 08:51 橿原行き急行に乗車

平 端 09:01

平 端 09:06 天理行きに乗換

天 理 09:12

天 理 09:22

J R まほろば線桜井行きに乗車

J R 巻 向 09:30

◇◇◇ 天王寺方面からおいでの方

① J R 天 王 寺 08:35 大和路快速に乗車

王 寺 08:55

王 寺 09:03 J R 和歌山線奈良行きに乗車(5 番線)

巻 向 09:47

② J R 天 王 寺 08:30 大和路快速に乗車

奈 良 09:03

奈 良 09:08 万葉まほろば線に乗車

巻 向 09:30

2025（令和7）年9月例会報告《9月26日（金）》

～ 篠山城・大書院と春日神社、歴史美術館をたずねる ～

残暑も峠を越し、曇り空ながら肌にあたる風が心地よい朝を迎えた。

9時に起点の**役場前駐車場**を出発し、途中会長挨拶と本日の例会担当の福嶋氏から丹波篠山市の地理的位置（兵庫県東部の内陸部）、古代の雲部車塚古墳、中世の荘園時代、近世の徳川支配時代について概略説明があった。



篠山城趾

西宮名塩SAでトイレ休憩を取った後、舞鶴自動車道に入ってしばらく北上するとワイパーが動きだし雨が降り出した。雨はその後も断続的に降ったり止んだりした。

11時、時間通りに**篠山城趾の駐車場**に着き、篠山市観光ガイドの大久保さんの出迎えを受け、さっそく**篠山城趾**と**大書院**の案内を受けた。篠山城は石垣のみ残っているが豊臣恩顧の大名が「天下普請」と呼ばれる総力をあ



大書院

げて築城した面影が残っていた。また、西国諸大名が動員されて築かれた大書院は古式の建築様式を随所に残し、貴重な建築物であることが窺えた。

その後、“**特産館ささやま**”で昼食タイムに入った。

午後は歩いて**丹波篠山春日神社**に参拝し、境内の能舞台を見学した。春日神社は奈良の春日神社の分霊を篠山城趾経由で奉還されたもの。能舞台の特徴は、踏み音をよく響かせる為に床下に埋められた7個の丹波焼きの大甕が有名。（隙間から少し見えた）



春日神社

最後に旧篠山裁判所の建物を利用した**丹波篠山市立歴史美術館**で発掘された埋蔵文化財を見学して篠山市を後にし、来た道に戻り、予定の午後4時前に平群に帰着した。（河本記）



歴史美術館

参加者21名（内当日会員2名）]

2025（令和7）年10月例会報告 ≪10月12日（日）≫

～ 桜井南部・忍坂方面の史跡めぐり ～

台風23号の接近で何時雨が降ってもおかしくはない空模様の中を出かけ、早くも近鉄田原本駅に着く頃にはパラパラと降ってきました。近鉄/JR 桜井駅で降り、南口のバス停前に集合し、会長挨拶と当日の行程説明がありました。

バスは宇陀方面行の中型バスで、16名の当会団体が乗車すると数名の立ち席者が出ました。12時過ぎに最初の訪問先の石位寺に着きました。ここは拝観予約をしており、地元の方々の出迎えを受け、さっそく本堂に収まる我が国最古と言われる石造薬師三尊仏を拝観しました。その後、境内で昼食タイムに入りました。

午後は坂道を登り、長い石段を登り、舒明天皇陵の遙拝所に着きました。舒明天皇は我が国初の国家寺院・百済大寺を建てた天皇と知られているとの説明がありました。

その後更に山道を辿り、万葉歌人・額田女王の姉・鏡女王の墓、更に奥の大神皇女の墓を見学して忍坂街道に戻りました。

当日、忍坂は秋祭りで、太鼓台が練り歩き、途中立寄った忍坂坐生根神社も祭飾りがされていました。

最後の訪問先の朝倉2号（古墳）公園では、宅地開発のために移築された1号、2号、8号、9号古墳を見学して近鉄朝倉台から帰路につきました。心配された雨も傘をさすほどもなく感謝・感謝です。 [参加者16名（内当日会員1名）]



桜井駅バス停前にて



石位寺到着



石井寺境内で昼食



舒明天皇陵にて説明



忍坂1号墳前にて



石位寺にて



薬師三尊石佛

「大和お城まつり 2025」に参加して

今年も奈良県下の各市町村教育委員会などによる奈良のお城 PR イベントに、当会も出版冊子販売で参加しました。

10月5日（日）10～16時：於奈良県コンベンションセンター
会場はお城ファンで賑わい、多数の方がブースを訪れました。

[参加：繁田・河本]

藤田家住宅清掃作業 応援参加案内

11月3日（月）と11月16日（日）に開催される平群町重要文化財の藤田家住宅特別公開に先立つ庭清掃作業を、観光ボランティアガイドから応援要請が来ております。作業は下記要領で行われます。当会も平群町の文化財保護・PRの観点から協力したいと思います。

◆（その1）

実施日時：10月30日（木）9時～

当日雨天の場合、翌日31日（金）9時～に延期

◆（その2）

実施日時：11月11日（火）9時～

当日雨天の場合、翌日12日（水）9時～に延期

※参加者は直接藤田家住宅にお越し下さい。軍手着用、用具持参不要
連絡先：河本（携帯080—6112—3406）

③ ふるさと へぐり再発見



弥生の祭 「銅鐸祭祀」

弥生時代には近畿地方を中心に銅鐸どうたつという鐘状の銅造物を用いた祭が行われました。

本来の用途ははっきりしませんが、狩猟や農耕に関係する絵の例があり、豊穡・豊作を願った際の道具と考え

られています。

銅鐸は釣手の形状から四つに大別されており、大きさも徐々に大きくなります。

この変化は、聴く銅鐸から見る銅鐸への変化です。古いタイプは中に棒状の舌ぜうを吊って揺り鳴らしましたが、新しいものは吊り手が薄くなり据え置いてみるだけになります。

昭和五十五年三月二日、当時小学生であった後藤少年が廿日山の土取り場崖下で銅鐸を発見、その後昭和五十七年に町教委へ届け出たのです。

これは高さ約二十二cmの外縁付紐式で二番目に古いものです。(中期前半頃)内面には舌のあたる突帯部分の痕跡が残っています。

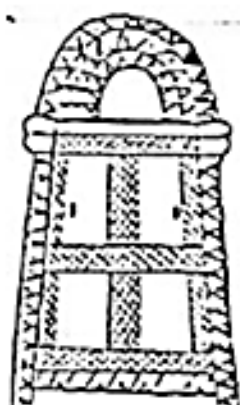
これまで奈良県では十ヶ所で十四例が出土しており、

伝承例も五例しか知られていません。廿日山遺跡での銅鐸の出土は、この遺跡の県下での重要性を示しているのです。

廿日山遺跡は、弥生時代中期後半には開かれ始めた

ことが、発掘調査で分かっており、銅鐸を所有する集団が村を開いたのかもしれない。前回掲載した住居跡に棲んでいた人々が祭ったと考えられ、銅鐸と関係集落が発掘調査でつながった好例と言えるでしょう。

聴く銅鐸から(小型)から 見る銅鐸へ(大型)へ 右が廿日山出土品略図



みんなのひろば

◇◇◇ 難波宮跡とわたし ◇◇◇

私が難波宮とかかわり始めたのは、昭和49年に大学のサークル“考古学研究会”に入会してからです。

昭和初期に陸軍被服廠内で発見された奈良時代の瓦と、昭和 27年秋に法円坂住宅建設現場で発見された鴟尾(しび)の断片の発見から山根徳太郎博士が難波宮の存在を確信され、昭和 29 年春に私費を投じて発掘調査が開始されました。

前期難波宮(孝徳朝・長柄豊碕宮～天武期 686 年に焼失)と後期難波宮(聖武期～長岡京移転まで)の2つの都の存在が“記紀”にあり、その存在が一連の発掘調査で確認される事となりました。

しかしながら当初は遺跡を破壊から守る法的根拠が無く、住民訴訟という形で行政と争う事となり、結成されたのが“難波宮址を守る会”です。全国的に遺跡保護運動が広がり“文化財保護法”が成立しました。難波宮跡は土に残された遺構であり、石山本願寺や大坂城の大築造が3回行われているにもかかわらず、遺構は非常によく残されていて、柱穴を丁寧に見つけることで遺構の形や規模が判明し、NHK 大阪放送局の新築現場からは大量の木簡(地方からの物資の荷札)が発見され、難波宮の存在がより明白になりました。みなさんが利用されている阪神高速東大阪線…、法円坂東付近は高架ではなく地上を走行します。これは橋脚により埋蔵文化財である難波宮の遺構が破壊されるのを防ぐためになされています。



全国各地の古墳や遺跡・文化財を守ることは後世の人々のために必要です。保存するにはお金もかかります。実際に住んでおられる住民の方々のご理解と協力が必要です。本会の町内の古墳清掃活動はこの意味で大変意義のあることと思います。

緑ヶ丘 別所小三郎

※編集部では会員のみなさんの投稿をお待ちしています
(会に対するご意見や要望、俳句・川柳・紀行文・日頃
の生活など内容を問いません)
※河本まで(携帯 080-6112-3406)連絡ください

平群史蹟を守る会